

一般廃棄物の目標の達成状況

・平成27年度における目標値と平成26年度速報値との比較を表1-1-1に示す。

表 1-1-1 目標の達成状況

	H22年度(実績)	H27年度(目標)	H26年度(速報)
排出量	346万t	282万t	319万t
再生利用率	12.2%	22%	13.7%
最終処分量	50万t	35万t	38万t

・平成27年度における目標設定の考え方と平成26年度速報値の状況について表1-1-2に示す。

表 1-1-2 目標設定の考え方と平成26年度速報値の状況

分野		H22年度 (実績)	H27年度 (目標)	H26年度 (速報)	主な要因
発生抑制	生活系 厨芥類(生ごみ)の「水切り」、 「調理くず及び食べ残しの削減」を各家庭で実践	排出量200万t	排出量183万t (排出量8.7%削減)	排出量190万t	・住民の発生抑制への意識の浸透により、厨芥類の「水切り」「調理くず及び食べ残しの削減」が実践されると期待されたが、目標値ほど削減が進まなかった。
	事業系 ①混入産業廃棄物の削減 ②資源化可能な古紙類の削減	排出量145万t	排出量99万t (①混入率21%→10% ②混入率21%→4%)	排出量129万t	・産廃であるプラスチックの混入率が府内市町村における組成分析調査の事例では、約14~21%みられている。 ・資源化可能な古紙類の混入率が府内市町村における組成分析調査の事例では、約13~23%みられている。 ・混入の理由は、「手間の負担増」、「保管場所がない」。
再生利用	容器包装廃棄物の 再生利用量の増加	回収量16万t	回収量28万t (容器包装廃棄物の 回収率※ 33.2%→60%)	回収量16万t	・スチール缶は、消費重量減少により回収量が減少。 (消費重量 685千t(H22)→611千t(H25) (出典:スチール缶リサイクル協会 HP)) ・スチール缶及びアルミ缶の回収量が、軽量化により減少。 (スチール缶:H25年:H16年比5.7%減量化、アルミ缶:H25年:H16年比4.1%減量化 (出典:3R推進団体連絡会 第二次自主行動計画 2014年フォローアップ報告))
	集団回収量の増加	回収量24万t	回収量29万t (1人1日当たりの回収量 74g→90g)	回収量23万t	・新聞、印刷・情報用紙の生産量の減少により紙類の回収量が減少。 (新聞用紙生産量 3,349千t(H22)→3,134千t(H25) 印刷・情報用紙 9,547千t(H22)→8,491千t(H25) (出典:「古紙ハンドブック2015」(公財)古紙再生促進センター))

※:回収率(%)=容器包装廃棄物の収集実績量/排出見込み量×100